

1. なぜ正社員になりたいのか

就活をしている人たちに聞くと、多くの人は「正社員を希望します」

と答える。

しかし、なぜ正社員を希望するかと重ねて聞くと、その理由を明快に述べることができず、

「皆が正社員だから。親が言うから。～～」

と言う答えが返ってくる。自分が求めているものが何であるか、まず整理してみよう。

一般言われている正社員のメリットは以下のようなものがある。

- 1)非正規雇用と比べ、保険等処遇がしっかりしている
- 2)正規の場合には研修などで、自分の力を伸ばしてくれる

しかし、1)に関しては、名ばかりの正社員に惑わされることになる。

A社の求人：大手企業の関連会社の契約社員、1年ごとの契約更改だが実質60歳の定年までは原則契約更改が続く。雇用保険、厚生年金、健康保険は完備している。賞与・退職選別金あり。

B社の求人：正社員で募集、但し会社規模が小さいため、厚生年金にも加入していない。賞与は業績により支給されないことがある。

上記求人を見て、どちらを選ぶであろうか？

一方、2)の研修制度と言うか、会社が育ててくれると言うことに関しては、正社員のメリットは否定できない。ここでもう一言、契約社員について指摘しておこう。大学の教官や、プロ野球の選手のような働き方である。契約社員の本質は、このように一人前の人間が、その能力を雇用者に提供する雇用形態である。昔のIT系の会社でも月報60万～70万円の契約社員などの例もあった。このように、自分の力で雇用する側と対等で交渉できるのが、本来の契約社員の立場である。

会社の研修で育てられるのは、継続して実力を伸ばしてくれる可能性がある。しかし、会社の形にはまることがあり、しかも一般的な力ではなく、会社の外で通用しない、ガラパゴス化したスキルの塊になる危険性もある。

ただし、一つの会社の中でしか通用しないとと言っても、少し応用を利かせれば他でも使えることが多い。例えば、文書の作成は会社特有の形がある。しかし、読みやすく流れを整理するという考え方は、同じである。このような文書作成のスキルを応用すれば、色々な状況で使えるようになる。

こう考えると、一つの会社の文明に染まっても、その中で自分を鍛えて、外でも通用するようになることは十分可能である。

以上をまとめると、正社員希望の場合には、処遇面については、大手会社の契約社員の方が、処遇が良いこともあるので、よく考える必要がある。しかし、研修などで自分の力を伸ばしてくれる可能性は、正社員採用の方が高い。

2. 採用する側の観点

前に述べたが、正社員で採用するのは、会社として長期的に勤務してもらうことで、継続的に利益を生み出すことに貢献すると期待できるからである。

そのためには、潜在的な面も含めて能力を感じる人材を採用するのは当然である。また、育成しやすそうな人材、特に成長しそうな人材を選ぶことになる。一方、現在での即戦力性が高い人は、給与を高くした契約社員として、仕事をして貰うことが適切であろう。なお、他社に引き抜かれることを防止するために、正社員として処遇することもある。

世の中には、「採用時にはコミュニケーション能力を重視する」と言う統計があるらしい。しかし、この意味をしっかりと理解しないといけない。まず、面接の担当者の前に出てくる候補者は、適性検査などである種の知能テストのふり分けが済んでいることが多い。このように、必要条件としての知能レベルを確保した上で、指導者の言うことを聞くという能力を評価しているのである。特に、面接では、面接官の質問の真意を理解し、適切な答えを返す能力を重点的に評価している。このような観点でのコミュニケーション能力である。仲間内で、わいわい騒ぐことで、「コミュニケーション能力がある」と誤解してはいけない。企業側でのコミュニケーション能力評価には、単にしゃべるだけでなく、きちんと挨拶ができる。相手の顔をしっかりと見て話を聞くなどの項目も含まれている。

その他、学ぶためには、読み書き等の基本的なスキルが、しっかり身につけていることが必要条件である。また、対人的なスキルとして、人に対する思いやりができないといけない。その上で、今までにスキルを苦勞して身に着けた経験がある。そして、謙虚に反省し、改善を行う向上心のある人間を求めている。

なお、採用の必要条件として、事故を起こさないように、安全に配慮する姿勢が大切である。このような企業の考えに合わせる姿勢があれば、入社後の成長も期待できる。

3. 仕事の内容から正社員の必要性

ラスムッセンによると、人間活動を大きく分けると、以下の3つのパターンに分かれる。

- 1)個人の技に依存する、スキルベースの仕事
- 2)規則に従って対応する、ルールベースの仕事
- 3)知識を総合的に生かす、知識ベースの仕事

1)のスキルベースには、職人芸のような技の世界もあり、接客においても顧客の反応を読み取り適宜対応する等も含まれる。一方、接客においてマニュアル通りの機械的な対応ならば、2)のルールベースの仕事となる。さらに、お客様の動向や市場の状況を総合的に判断し、売れ筋のものを並べるなどの判断は、3)の知識ベースの仕事となる。

ここで、大切なことは1)のスキルベースの仕事と、3)の知識ベースの仕事に関しては、個人の経験と伴に蓄積するものが大きいと言うことである。つまり正社員として継続雇用で訓練する価値がある。しかし、マニュアル通りの活動する人間は、交代が可能であり、非正規雇用や短期アルバイトでも対応可能である。

つまり、仕事の上では、技を磨くか、知識を活用し、しかも今後とも成長する人間でないと、正社員にする必要性が弱い。

#### 4. 求職側の誤解

学生が、2. 項の話を読むと、以下のような誤解をする可能性がある。

まず、能力と言うなら学校の成績と短絡的に考える。またコミュニケーションと言うと、部活やバイトでリーダーとして人に指示した経験と考える向きもある。しかしながら、企業の求めるものは、上述したように、仕事に適応して、成長するための基礎的な能力とスキルである。

特に知識については、自分で考えて結果を出せる能力を求めている。そのためには、基礎的な学力と、学問の方法を身に付けておくことが大切である。なお、適性検査での知能テストを行う場合もある。これも一つの傾向を評価するためには便利な手法である。少なくとも、ある程度の成果を出せないという情報には意味がある。

また、コミュニケーション能力は、面接での受け答えで重点的に評価される。面接官の質問に対して、的確に答えているか。また、自由作文・論文などで、論旨展開がしっかりして読みやすいものを書いているか、このような能力が評価されている。

#### 5. 正社員に値する人材となるために

##### 5-1 頭の良いと言われるようになるために

###### 5-1-1 適性試験の対策

まず頭の良いと言うことを評価するのは、SPI等の適性試験である。この試験の問題を見ると、文章の読解力があると有利だと解る。ただし、読解力と言っても文学作品のような大げさなものではなく、小学校高学年で出てくる算数の文章問題の題意を理解するレベルで十分なものも多い。

なお、推論能力の試験にも、数字の列の規則性や、図形の規則性を見る問題もあるが、算数の文章題のレベルの問題もよく出てくる。中学の数学の手法で解いてもよいが、小学校の算数の文章題を多数、早く解く訓練は、文章読解と推論力の両面の訓練として有効である。

少し長い文章の読解力の訓練では、『天声人語』などの、新聞のコラムを読むことも効果がある。段落の構造などに注意しながら読むことが大切である。

###### 5-1-2 知識の活用

企業が求める頭の良い行動の一つは、説明能力である。例を引きながら、因果関係を整理して理路整然と説明する。このような能力を求めている。このためには、学生時代に学んだ知識を活かして説明することが求められている。知識は、試験で評価するのではなく、説明などで使うことで評価される。大学で学んだ知識と言っても、狭い専門知識より、一般教養から専門知識の基礎となる分野を、幅広く使うことを要求されている。なお各分野の知識の活かし方の要点は次のとおりである。

- 1)工学などの分野では、数式だけでなくその意味を言葉で説明する
- 2)文学は、人の心を理解する力を示す
- 3)経済系では、市場原理の説明や、広い関係者の利害の調整を考える  
金利の仕組みなどの知識も有効である
- 4)法学では、三段論法による論理展開や、憲法—他の六法—般法規などの階層的な考えを理解している

また知識の世界と現実の世界の違いをよく理解し、厳密な理論展開をきちんと行うとともに、適切な具体例との対応をしっかりと取る手法を知っておくことが大切である。理論の力で予測することができるし、現実の複雑な事例の前では、謙虚に反省することができる柔軟な対応が必要である。

##### 5-2 コミュニケーション能力

###### 5-2-1 対話の力

会社生活では、色々な人と接し、教えてもらうことが大切である。このためには、コミュニケーションがきちんと行えることが大切である。そのためにも、まずきちんと挨拶ができる、人の話を聞くという姿勢が身につけていることが大切である。この基本は、他人に対して尊敬の心を持つことである。

その上で、人により色々な考え方があることに配慮することも大切である。相手の考えが、色々な前提で成立している。その理解の上で、話を聞き、自分の意見を言うことで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。

###### 5-2-2 文書作成能力

自分の意見を受け入れてもらうためには、文書の形で提案することが効果的である。特に全体像を描き、その中で自らの提案を評価する。このような経験を積むことで、解りやすい説明を行うことができる。また、自分の描いた全体図の中で、評価することで、他人の意見の良いところを受け入れることもできるようになる。

###### 5-2-3 基本マナーとスキルの訓練

挨拶などの基本マナーは毎日の生活から鍛えていくものである。そして、人の言葉を真剣に聴く、その記録をとる。このようなスキルも日々の訓練で身につくものである。学生時代にノート作成をきちんと行う練習をすることも生涯役に立つ力である。

#### <補足>

##### 1. 教科書の読み方

学生時代の教科書の活用は、IT時代だからこそ重要である。個別の知識や情報は、ネット上の情報を検索することで入手できる。しかし、総合的な図式を理解するためには、基本的な教科書を通して読むことが有効である。

特に、その分野の大家と言われる人が描いた教科書を読んで、著者の想いを理解する訓練は、人間の理解法としても効果が大きい。

教科書を読んだ場合に、自分の言葉でノートに書きなおす。その内容を適宜取捨選択し、必要に応じて他の情報を補ってみる。そして、自分でノートを使って説明ができるようになる。このような経験ができれば、知識を活かす一歩目は踏み出せたことになる。

##### 2. 経験について

学生の弱点は、経験不足である。実体験不足は謙虚に認めればよい。但し、会社生活では経験したことを、自分の知識で説明することを常に考えればよい。経験零では何も言えないが、一つの経験を膨らませるのは、知識を活かして考えた結果である。このような姿勢を忘れずに頑張してほしい。

以上